

日本郵船 東京コンテナ・ターミナル&コンテナ船の見学会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、日本郵船のご協力のもと、台風等の影響で1日遅れとなったが8月8日（火）に東京・大井コンテナ埠頭においてコンテナ船「NYK VIRGO」の見学会を開催し、一般公募約100名から当選した小学生の親子など計18名が参加しました。

参加者は、東京タワーを横にした長さに相当する338mの巨大なコンテナ船に乗り込み、同社 相原大井事務所所長代理・当協会 田中常務理事の案内のもと、操舵室（ブリッジ）、機関室（エンジンルーム）、居住区などを見学しました。

操舵室では航海計器の種類や機能、航海中の船員の役割などの説明があったほか、参加した子供たちは舵輪を握り、航海士気分を味わうことができました。



機関室ではメインエンジン等を制御するモニターやメーター類を見学する中で操舵室と機関室との連携の重要性について説明を受けたほか、機関室の内部ではメインエンジンや推進軸を実際に間近に見ることができました。また、「船を動かすのに1日に100トンもの油を使っている」という説明や、本船機関士からの「みんなはもう海の中にいる」という声に、参加者からは歓声があがりました。

さらに、食堂やレクリエーションルームなどの居住区を見学し、普段船員がどのように過ごしているのかを垣間見ることができ、参加者は興味深げに中を見て周りとともに、外国人乗組員と会話したり、写真を撮ったりしておりました。

本船見学後には、コンテナ・ターミナル管理棟にて、白石大井事務所所長より歓迎の挨拶があった後、映像資料にてコンテナによる輸出入サイクルやコンテナ・ターミナルの役割についての理解を深めました。また、屋上からガントリークレーンによる荷役作業の様子やコンテナ・ターミナル全体を見学するとともに、同社の保有するコンテナ専用立体格納庫が世界に一つしかない旨の説明を受け、驚きの声があがりました。

参加者からは「本船のコンテナすべてを並べると成田空港から東京までの距離になると聞いてびっくりした」「商船というものを全く知らない中で参加したが、魅力のある重要な仕事であることが分かった」「今後もイベントに親子で参加したい」などのコメントが寄せられ、海運や船に対する理解の深まる見学会となりました。



当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。